

患者の皆さまへ

当院では、保有する既存試料・情報を用いて下記の研究を実施しております。このような研究の実施に当たっては、研究対象者の方に研究の参加を拒否する権利が保障されております。(オプトアウト)
この研究に関するお問い合わせなどありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

研究機関名	市立豊中病院
倫理委員会承認日	2018年 2月28日
研究期間	2022年12月31日 まで
研究の名称	側方進入椎体間固定術の合併症のデータベース構築に関する研究
研究対象	側方侵入椎体間固定術(LIF)を行った症例
対象材料	診療記録
対象期間	2016年1月～2021年12月
研究の目的意義	脊椎手術においても低侵襲手術のニーズが高まっている。近年、前方手術でも新しい術式が開発され、側方から椎間板にアプローチする術式であるXLIF (eXtreme Lateral Interbody Fusion)・DLIF (Direct Lateral Interbody Fusion)と前側方から椎間板にアプローチする術式であるOLIF (Oblique Lateral Interbody Fusion)が現在までに本邦に導入されている。これらの新たな手技の導入に伴い、様々な合併症が起きていることが報告されており、より安全な術式として普及していくためには継続的な全国調査が必要である。そこで、日本脊椎脊髄病学会で、側方進入椎体間固定術(Lateral Interbody Fusion:LIF)の手術件数および合併症の発生頻度とその内訳を明らかにすることを目的に、本術式に関するアンケート調査を継続的に全国規模で行うこととなり、当院も参加することで貢献できると考える。側方侵入椎体間固定術を行った患者に対する術中術後合併症に関するデータベースを構築することで、新術式(側方侵入椎体間固定術)の安全使用や合併症予防に活用するため。
方法	・デザイン;後ろ向き多施設観察研究(介入、侵襲なし) ・情報収集及び統計解析; 日本脊椎脊髄病学会員が所属する医療施設の調査担当者が、LIF の手術件数と合併症発生数を調査し学会指定のWEBアンケートフォームに入力する。合併症発生例については、その詳細をアンケート調査フォームに登録する。
個人情報の取り扱い	本研究のデータは、研究目的の達成に必要な範囲を超えて取り扱わず、安全に管理する。研究結果から個人が特定されることはない。
問い合わせ先	市立豊中病院 整形外科 北口 和真 TEL 06-6843-0101